

令和6年度第2回 仙台市立病院経営評価委員会議事録

- 1 日 時 令和7年3月18日（火）18:00～
- 2 会 場 仙台市立病院 3階第3会議室
- 3 出席者 藤森研司委員長、島村弘宗委員、鈴木信子委員、矢川昌宏委員、大和一美委員（委員5名）
奥田病院事業管理者、渡辺院長、八木医療管理監、伊藤理事、山口次長（兼）経営管理部長、
佐々木看護部長、松本健康福祉局保健衛生部長、太田経営管理部参事兼総務課長、堀江経営医
事課長、小林情報システム課長、高橋財産管理課長、中田総合サポートセンター副センター長、
吉野経営医事課主幹兼企画医事係長、鈴木財務収納係長、荻原財務収納係主任、結城診療情報
管理士、武田診療情報管理士、渡邊診療情報管理士
- 4 欠席者 荒井由美子委員、今西陽一郎委員

4 次 第

- (1) 開 会
- (2) 挨 拶
- (3) 報 告
 - ①「仙台市立病院経営計画（2022年度～2024年度）」における実績値の訂正について
 - ②令和7年度 予算について
- (4) 議 事
 - ①次期「仙台市立病院経営計画（令和7年度～令和9年度）」策定について
- (5) 閉 会

配付資料

- | | |
|-------|--|
| 資料1 | 「仙台市立病院経営計画（2022年度～2024年度）」における実績値の訂正について |
| 資料2 | 令和7年度 予算について |
| 資料3-1 | 「仙台市立病院経営計画（令和7年度～令和9年度）」[本編]（案） |
| 資料3-2 | 「仙台市立病院経営計画（令和7年度～令和9年度）」[概要版]（案） |
| 資料4 | 「仙台市立病院経営計画（令和7年度～令和9年度）」（案）に係る仙台市立病院経営
評価委員会からのご意見について |

<議事概要>

(1) 開会

(2) 挨拶

奥田事業管理者から挨拶。

(3) 報告

- ・ 会議公開の確認⇒異議なし（傍聴者1名）。
- ・ 議事録署名委員を島村委員、大和委員に依頼。⇒了承。

- ①「仙台市立病院経営計画（2022年度～2024年度）」における実績値の訂正について
(事務局から資料1を説明)
(質疑応答)
⇒ なし

- ②令和7年度 予算についてについて
(事務局から資料2を説明)
(質疑応答)

【矢川委員】

「1事業計画」の総延入院患者数は、令和6年度見込から令和7年度予算で増減がないが、

一方で「2収益的収支予算」で令和6年度見込と令和7年度予算の医業収益で変動があるのは、単価を上げるという認識でよろしいか。

【鈴木財務収納係長】

その通りである。

【藤森委員長】

職員給与費は、人事勧告などの影響で令和5年度(決算)から令和6年度(見込)の増減が6億円増となっているものの、令和7年度(予算)では令和6年度(見込)から1億4,000万円増となっており、見込み額が少ない印象があるが、ベースアップの今後の動向について矢川委員にお聞きしたい。

【矢川委員】

今後のベースアップの動向については、なかなか判断が難しいところである。

【仙台市立病院事務局 太田参事】

今後、昨年度並みの賃上げを要求するという話も出ているため、令和7年度(予算)を越えてくることが想定はされるが、計画を立案する際は、過年度の平均比率をベースにすることが多いため、抑えた見込み額となっている。また、予算が足りなくなる場合は、補正予算を組んで対応することとなる。

(4) 議事

①次期「仙台市立病院経営計画（令和7年度～令和9年度）」策定について

(事務局から資料3-2、資料4を説明)

(質疑応答)

【島村委員】

資料3-1の28ページ「②高度な医療技術の実践」の手術支援ロボット手術については、どの診療科が実施しているのか。

【仙台市立病院事務局 渡辺院長】

昨年10月から導入しており、泌尿器科と外科が実施している。また、本年3月に産婦人科の実施を予定している。

【島村委員】

手術支援ロボットの枠の取り合いにならないのか。

【仙台市立病院事務局 渡辺院長】

泌尿器科と外科は週2日ずつ、産婦人科は週1日とし、曜日で割振りしている。

【島村委員】

資料3-1の35ページ「医療安全管理研修」は令和6年度見込3回のみの開催なのか。

【仙台市立病院事務局 渡辺院長】

本計画の指標では全職員対象必須研修に限定しており、その実施開催回数が3回となっている。また、全職員対象とは別に医師向け、看護師向けなど職種を限定した安全管理研修も実施している。

【大和委員】

資料3-1の37ページ「取り組み方針3 人材の確保」が挙げられているが、現在は人材派遣会社などを活用しなくても、十分なスタッフが集まっているのか。

【仙台市立病院事務局 奥田事業管理者】

現在は人材派遣会社を利用せず、一般募集等で対応している。

【矢川委員】

資料3-1の36ページ「③医業未収金の抑制に向けた取り組み推進」について、収納率の実績が99.2%となっており、0.8%が貸倒れとなっていると思うが、貸倒引当金の予算額は、どういう算出をしているのか。

【仙台市立病院事務局 堀江経営医事課長】

過去3年の貸倒実績率を基に算出し、貸倒引当金を予算措置している。

【矢川委員】

資料3-1の36ページ「③医業未収金の抑制に向けた取り組み推進」の内容に「早期の支払い勧奨の徹底や弁護士法人の活用による医業未収金の抑制」との記載があるが、具体的にどの

ようなことを行っているか。

【仙台市立病院事務局 堀江経営医事課長】

債権回収の弁護士法人と契約しており、当院の職員が電話催告等をして回収が難しい債権については、弁護士に委託している。

早期の支払い勧奨については、保険に加入していない人や交通事故に遭った方に対して当院の職員が、入院した段階でアプローチをして損害保険会社や生活保護の所管部署につなぐように早期に着手している。

【矢川委員】

経営計画に関して意見を3つあげたが、そのうちの減資についてである。東洋経済の2月8日号に赤字の自治体病院の累積欠損金ワースト150が載っていた。仙台市立病院はワースト70位であった。地方公営企業の場合には一般会計からの出資金は組入資本金に計上され、減価償却費等を通じて最終的に純損失を計上することになり、累積欠損金も同時に増える。例えば、組入資本金を200億円計上した場合に、純損失が200億円計上されれば、結果的に累積欠損金も200億円計上されることになるという仕組みである。

平成21年度の地方公営企業法の一部改正により、経営悪化等の理由で累積欠損金が増大した場合には減資により解消できることとなった。ただし、減資を実施するためには、議会の承認を得るとともに、市民に対しての説明したうえで可能となるものであり、最終手段である。

万が一の準備として、資本金は固有資本金と一般会計からの繰入資本金の合計であるため、総勘定元帳を作成し、每期記録した方がよい。また、必要に迫られた時は、一般会計からの繰入資本金を取り崩して補填するという手段があるということ意見を意見として提出させていただいた。

【堀江課長】

当院でも情報収集に努めていく。

【鈴木委員】

資料3-1の39ページ「①看護師の新たな勤務体制に向けた検討」の内容に「2交代制への勤務体制変更や短時間勤務の導入」との記載があるが、短時間勤務の具体的な時間帯を教えてください。また、それに伴う看護師の増員も考えているのか。

【仙台市立病院事務局 佐々木看護部長】

短時間勤務については、9時から13時や10時から14時などの4時間勤務のパターンを用意して募集をかけたが、現在は9時から13時までの勤務で6名採用している。

【鈴木委員】

子育て中の方には、喜ばれる勤務体制だと思う。

【仙台市立病院事務局 佐々木看護部長】

子供が学校へ行っている時間帯に働きたいという子育て中の方の応募が多い状況である。

【鈴木委員】

資料3-1の39ページ「④タスクシフト・タスクシェアの推進（診療看護師(NP)等の人材育成など）」の内容に「特定行為などの診療行為を行うことができる看護師」との記載があるが、これは診療看護師(NP)の育成を指すのか。

【仙台市立病院事務局 佐々木看護部長】

特定行為研修を修了した看護師については、必ずしも診療看護師(NP)のみの育成という考えではない。

【鈴木委員】

診療看護師(NP)は、何名いるのか。

【仙台市立病院事務局 佐々木看護部長】

当院には、1名在籍しているが、現在、院内で特定行為は実施していない。

【藤森委員長】

資料3-1の30ページ「戦略2-(1)救命救急センター機能の強化」について、何か具体的な取り組みはあるのか。

【仙台市立病院事務局 渡辺院長】

医師の当直体制の見直しや救急患者の電話応需に救命救急士を導入するなどを検討しながら、救急患者の積極的な受入れに努めていきたいと考えている。

【藤森委員長】

医師の当直体制を変えていくのか。

【仙台市立病院事務局 渡辺院長】

医師の当直体制は大きな変更してはいないが、今年から ICU 病棟、HCU 病棟への医師の 24 時間配置の開始に伴い、深夜帯の救急外来当番 1 名を HCU 病棟の 24 時間配置に変更した。

【藤森委員長】

救急外来の深夜帯は人員が薄くなるが、そこは大丈夫なのか。

【仙台市立病院事務局 渡辺院長】

準夜帯に比べ、深夜帯の救急患者数が少ないことが統計的にわかっているため、その時間帯の人員を見直して運用している。

【藤森委員長】

資料 3-1 の 30 ページ「①救急患者の受入れ体制の強化」における評価指標の小児救急対応患者数は、救急車搬送患者受入数の内数なのか。

【仙台市立病院事務局 吉野経営医事課主幹】

救急車搬送患者受入数の内数ではなく、救急車搬送患者以外も含まれる。

【藤森委員長】

三次救急医療機関においては救急科の平均在院日数の長さが課題となっているが、資料 3-1 の 30 ページ「②多くの重症患者を受入れるための連携強化」の評価指標の実績値では、どのくらいの平均在院日数の短縮が図れているのか。

【仙台市立病院事務局 渡辺院長】

平均在院日数の変化は把握していないが、後方支援病院のご協力もあり患者の回転はスムーズになってきている。

(5) 閉会

以上